

・その他の危険有害性情報の「見える化」
 ただ「ヒヤリ ハット投函箱」を設置して情報を集めるのではなく
積極的に出向いて集めたヒヤリハット の「見える化」



事務所カウンターに設置した
 「ヒヤリ ハット投函箱」

「ヒヤリ ハット投函箱」



事務所外に設置した
 「ヒヤリ ハット投函箱」

一時期多くの枚数を集めた「ヒヤリハット」体験 今では提案件数が限りなくゼロに近い状況です。
 事務所カウンターに設置していた「ヒヤリ ハット投函箱」を事務所外ポストや詰所と投入しやすい
 場所へと移動しましたが、あまり変化はありません。

また高所作業もなく 大きな機械を使わない協力業者さんには当たり前過ぎて発言し難かった
 ようでしたが、朝礼KY活動の輪に入って直接意見を求めてみたら「ヒヤリ ハット体験」はまだまだ
 たくさんありました。

「ヒヤリ ハット投函箱」でただ待つのではなく、

『こちらから出向いて』『あらゆる職種の皆から集める姿勢』があれば

『現場でのヒヤリ ハット経験は。?』

Aさん: 「滅多にない。」

Bさん: 「少しもない。」

Cさん: 「ほとんどない。」

Dさん: 「ない。」

Aさん: 「全くない。」

Bさん: 「……………」

『そんな 冷や水を浴びせる会話でなく…。』

Aさん: 「水バケツを持ったら、取っ手が外れて水が掛かった。」

Bさん: 「水が掛かったのは、ヒヤリ ハットなの?。」

Aさん: 「でも、冷たかった。」

Bさん: 「薬品などが掛ければ、危ないけど?。」

『言葉の通り、ヒヤリとしたハットしたことは何でも言って欲しい。』

Aさん: 「気を付けるしかない。」

Bさん: 「外れないか見る。」

Cさん: 「触らない。」

『仕事するには必ず必要な道具ですけど……。』

職長さん: 「良いのがあるヨ。」と言って持ってきてくれた取っ手補強されたバケツ。

『安心して作業できる、バケツ使用安全の見える化。』

Aさん: 「でも取っ手が外れたら水が掛かかる。」

「……………」



取っ手を補強したバケツ



シャックルと綱で補強した部分